



群青

校訓 学校教育目標
自主 自律 『志を持ち、学び合い、
高め合う』生徒



小山中・学校だより
第7号 H27. 11. 10

全国学力・学習状況調査結果を振り返り今後の授業に生かしていきます

4月に行われた全国学力・学習状況調査について、11月6日付で、3年生全員に個票を、全校生徒に県・小山町の分析結果を配布させていただきました。小山中学校でも、本校の結果と県・小山町の分析を照らし合わせながら、教科部会や全体研修会等で計画的に検証を行ってきました。今後も全教員で共通理解しながら、授業改善に生かしていきます。

国語、数学、理科について…小山中学校における全国学力・学習状況調査結果から

国語 《成果と課題》

○文章中から必要な情報を読み取り、内容を理解する力が概ね身に付いています。特に「書くこと」に関する設問の正答率は全国平均より大幅に上回っています。

○無答率が低く、時間内に問題を読み切り、その中で自分の考えを持つことができます。

▲「言語についての知識・理解」に関する正答率が、伸び悩んでいます。特に、「擬態語」「直喩」等の表現技法についての理解、語句の意味を理解して文脈の中で適切に使うこと等に苦手な傾向があります。

▲自分の意見を自分の言葉で説明することが難しいと考えている生徒が多く、話したり聞いたりすることでのコミュニケーション能力に課題があると考えられます。

《授業の改善・充実に向けて》

○「話す力・聞く力」の習得に関しては、コミュニケーション活動の活発化を念頭に、自分の考えとの共通点や相違点を整理させたい。そのための手立てとして、ペアやグループなど様々な形態を用いて、話し合いやインタビュー活動を行っていきます。また、話し合い活動における役割分担や決まりを設定し、テーマを設けて相互にインタビューし合い、やり取りを振り返って評価し合う活動を行っていきたいと思います。

○「書く力」の習得に関しては、目的や状況、相手に応じて資料を効果的に活用していきます。

資料を読み取った上で、求められている課題に対し、要点を押さえるように答えられるようにしていきます。

○「読む力」の習得に関しては、複数の情報の中から適切な情報を選択し、自分の考えをまとめる場を多く設定していきます。学校図書館やインターネット、また新聞を活用し、多様な情報に触れることを通して、それぞれの資料について意見や感想を述べる場面を設定していきたいと思います。

○「言語事項」の力の習得については、表現の技法の意味や用法についての学習を積み重ねていきます。具体的な表現に即して指導していることを、名称と結び付けて理解できるように指導していきたいと思います。また、表現技法とその効果について気づいたことを共有する活動や、表現技法とその用法をカードにまとめる活動を行います。問題文を最後までよく読まずに問題に臨んでいる生徒が多く見られるため、問題文に線や印を入れるなど、思考の過程を可視化するような指導をしていくことを継続していきます。

数学 《成果と課題》

○数学A（主として知識を問う設問）では、「図形」、「関数」、「資料の活用」の領域における正答率は高く、多様な問題に対応できています。

○数学B（主として活用を問う設問）では、どの領域についても確かな正答率を得ています。特に「数と式」については高い正答率を得ました。

▲計算問題を扱う「数と式」においては、等しい比を選ぶ問題、割合を含む連立方程式の立式などの正答率が全国平均と比べて低い傾向があります。

《授業の改善・充実に向けて》

○計算力の定着をめざし、昼休みや朝、放課後などを利用して計算問題を演習する学習会を行うことを計画しています。

○説明する力を伸ばすため、授業では、根拠を説明する機会を増やすことで、自分なりの考えを持って、さらに記述式に対応できるようにしていきたいです。

○既に授業で実践していますが、生徒に振り返りをさせ、根拠を考える習慣と説明する意欲を養っていきたいです。

理科 《成果と課題》

○全体としては、どの設問についても、県・全国の正答率を上回り、学習内容が確実に身に付いています。「生徒質問紙」の結果でも、全国的に「理科離れ」が言われていますが、本校生徒は88.9%の生徒が「理科が好きである」と肯定的に解答しています。これは国、県の数値を大幅に上回っています。

○分野別では、「生物分野」において正答率が高く自信を持っている。「物理」「化学」「地学」についても全国を上回っています。

▲上記のように、バランスよく学習が身に付いていますが、細かく分析しますと、課題としては、「天気図からの風向の読み取る」「条件に合う実験方法を選ぶ」「音の波形を比較し、音の高さが高くなった根拠を選ぶ」問題の正答率がやや低いです。課題や設問にある条件をしっかりと把握し、適切な方法や説明を選ぶことが苦手な傾向があると考えられます。

《授業の改善・充実に向けて》

○授業の中で、実験や観察を行う際に、教師から手法を提示するだけでなく、課題に対して生徒が実験方法を考えたり、既習の知識をもとに予想を立てたりする授業の展開をこれまで以上に多く取り入れていきます。

○実験の授業では、生徒にはレポートを課し、実験結果から考察を書くようにしていますが、そうした考察をまとめるときは、なぜその考察に至ったのか根拠を示し、グループや仲間との意見交流の時間を設けていくようにしていきたいと思います。

【生徒質問紙における検証について】

学力・学習状況調査は、国語、数学の問題を解く調査以外に、学校や家庭での生活に関する質問に答える「生徒質問紙」があります。この調査結果について分析し、職員全体で課題及び対策の共有をしました。

○朝食・就寝起床・家庭学習への取り組み・地域への参加・保護者と生徒との家庭でのコミュニケーションや関わり、保護者の学校行事への関心・メディアとの関わり方の結果から本校3年生の成長の基盤となる家庭生活の状況は安定しており、良好な環境で生活や学習が送れています。

○82%の生徒が学校生活を楽しいと感じ、学校の宿題への取り組み状況も良好な結果です。また学級での話し合いや協力する場面での達成感も感じることができています。学校生活での規範意識も高く、いじめに対する解答から善悪の判断も良好です。

○学習においては、話し合い活動や自分の考えを伝える活動の積み重ねを実感している生徒が多く、生徒が主体となる問題解決的な学習が進められてきています。その結果、自分の考えを書いて表現することに苦手意識を感じている生徒が本県や全国に比べて少ないです。

課題としては、1日当たりの読書時間が1時間以内と回答した生徒が多かったです。また、休日等に学校図書館や地域の図書館を利用する生徒が少ないという結果が見られます。「ネット上のニュースは読むが、新聞は読まない」という生徒も少なくありませんでした。

学習では、課題や宿題への取り組みは概ねよい反面、自分で計画を立てる機会や習慣が少ないことが読み取れます。進路学習の最終学年であります、「将来の夢や目標を明確に持ててない」と回答した生徒が3割います。生徒たちは、日々きまりやマナーを守って、一生懸命に活動していますが、3年先や10年先の自分自身の将来の姿については、十分に考えられるところまではいっていません。この点に関して教職員も重く受け止めて、進路指導や「職場体験や職場見学」、また「ようこそ先輩」等の中高連携を充実させていくことで、将来への夢や希望を育てていきたいと思ひます。

訂正とお詫び 10/7発行の学校だよりに「第7号」と記載がありますが、第6号の誤りでした。訂正とお詫び申し上げます。